

三菱一号館 -レガシーシティ

英文名称



竣工年	復元2009年
所在地	東京都千代田区丸の内2-6-2
用途	美術館
敷地面積	11,931 m ²
延床面積	6,469 m ²
階数	地上3階/地下1階
構造	免震構造、レンガ組構造、木造小屋組み

■プロジェクト概要

1894年に丸の内内で最初の近代的オフィスビルとしてジョサイア・コンドルを中心に設計された三菱一号館。これは単なる様式的な建物ではなく、この丸の内には「一丁倫敦（ロンドン）」と言われた赤煉瓦の街並みを形づくった「オフィスのプロトタイプ」であり、明治期の市区改正による街区形成の「基準」とも言うべき、都市的重要性を持つオフィスビルです。74年間この地に建っていた三菱一号館は、高度経済成長期の1968年、老朽化を理由に解体されました。

その後、丸の内の第3次開発の中で、三菱地所により委託された行政・学識の参加のもと、街づくりの観点から「復元の目的と意義」と、建築そのものに焦点をあてた、ふたつの復元検討委員会による報告書を受け、2009年、当時の設計図、実測図、保存部材等を用いつつ、免震構造などの最新技術によって復元されました。

美術館となった三菱一号館は、都市再生特別地区の指定を受け、同じ敷地内に立つ最先端オフィスビルとともに、CO₂削減、緑化をはじめとした環境負荷低減、文化施設の位置づけから、中庭の広場とともに、丸の内というスマートシティを構成する要素として評価されています。また、元の三菱一号館は、その後、明治終期までに設計された21号館（1914年竣工）に至る間、煉瓦による組構造に始まり鉄筋・鉄骨鉄筋コンクリート造へと、当時の新技術が次々に導入された未来志向の安心・安全な都市をつくり出すトリガーとなった点で、「明治時代のスマートシティ」の発端であったともいえるでしょう。

その時々々の社会と人びとの活動を映す建築、その保存・再生や新たな活用は、場所が持つ歴史的な価値を深めていく街づくりの一例です。